



修了証を受け取る高齢者大学の学生

## 高齢者大学の修了式

厚真町高齢者大学の修了式が3月28日、総合福祉センターで開かれ、学長の宮坂町長が学生61人に修了証書を贈りました。生徒会長の木下八重子さんは「胆振東部地震後のコロナ禍もあり、3年ぶりに皆さんと学ぶことができ楽しい一年でした。新年度から大学で、またお会いできることを楽しみにしています」とあいさつしました。

## 株式会社丸博野沢組と厚真建設協会が環境美化活動

株式会社丸博野沢組（野澤政博代表取締役社長）と厚真建設協会は4月上旬に河川敷や市街地で環境美化活動を行いました。株式会社丸博野沢組は4月3日、約20人の社員が会社に隣接する厚真川の河川敷でゴミを拾いました。野澤社長は「新入生が気持ちよく登校でき、町民の皆さんの散策路でもある河川敷がきれいになった」と話しました。

厚真建設協会の加盟社32人は4月4日、上厚真市街地と厚真市街地で道路を掃除しました。沿道にたまった砂や枯れ葉などを集め、ほうきや散水車などで取り除いて環境を整えました。



厚真市街地を清掃する厚真建設協会の会員たち 河川敷でゴミを拾う丸博野沢組の社員たち

## 地域おこし協力隊 10人に委嘱状を交付



着任した桑島翔太さん、中澤慧太さん、福澤翔太さん、山下裕由さん、市原裕司さん、島倉権さん、後藤涼平さん、今廣佐和子さん、對馬翔也さん、佐藤司さん(後列左から)

町は4月3日、新任の地域おこし協力隊10人に委嘱状を交付しました。

新たに着任したのは、農業支援員の桑島翔太さん、後藤涼平さん、對馬翔也さん、起業型の中澤慧太さん、福澤翔太さん、山下裕由さん、協働型の市原裕司さん、今廣佐和子さん、佐藤司さん、福祉支援員の島倉権さん。

農業支援員の桑島さんと後藤さん、對馬さんは就農を目指していて、起業型の中澤さんと福澤さんはそれぞれ羊の飼育、山下さんはくん製など食品加工を検討。また、協働型の市原さん、今廣さん、佐藤さんはそれぞれ飲食店のマネジメントやバイオマス発電施設の管理、学習塾の講師として研さんし、福祉支援員の島倉さんは福祉事業分野での活躍が期待されています。10人は、委嘱状を手に目を輝かせました。

## 北海道コンソーレ札幌OB会がサッカーボールなどを寄贈

北海道コンソーレ札幌OB会 CONSAOLDS 副会長の河合竜二さんと町出身の工藤光輝さんが4月3日に表敬訪問し、サッカーボール21個や記念フラッグなどを町に贈りました。

OB会は、胆振東部地震後に復興支援活動などを続けています。2日には、サッカー教室を開いて地元子どもたちを指導したほか、野原公園サッカー場でのイベントも企画しています。

河合さんは「サッカーを通じて、町の復興に協力したい」と語り、宮坂町長は「皆さんの活動が子どもたちの夢につながります。サポートします」とお礼を述べました。



ボールなどを寄贈する工藤光輝さん(中央)と河合竜二さん

## ハスカップフォーラムを3年ぶりに開催



3年ぶりに開かれたハスカップフォーラム

厚真産ハスカップブランド化推進協議会（山口善紀会長）が主催する町ハスカップフォーラムが3月23日、総合福祉センターで3年ぶりに開かれ、町民約30人が講演に耳を傾けました。

講師は、高丘地区で和牛メゾン事業を行うGOODGOOD株式会社の河合祥太さんで、商品開発や販売などの経験を踏まえながら解説しました。河合さんは「道内では、ハスカップの知名度が圧倒的に高い。日常生活でハスカップに触れる機会を作ることが大切で、皆さんの力になるのであれば一緒に歩みを進めたい」と語りました。山口会長は「先月、全国表彰を受けて、ハスカップを知ってもらえる機会が増えました。アドバイスを受けながら、PRしたい」と話しました。

町は3月24日、民間事業者が浜厚真地区に建設を計画している陸上風力発電所に関する3回目の勉強会を厚南会館で開きました。

勉強会には、町民約20人が参加し、一般社団法人日本風力発電協会国際部長の上田悦紀さんが「風力発電とは？」というテーマで講演しました。上田さんは、不安視される騒音や電波障害などに触れて「音の聞こえ方は人それぞれですが、陸上風力発電所から一定の距離が保たれていれば、機械音が耳につくことはほとんどありません。電波障害については、障害がある場所に設置することはありません」と説明しました。

また、町民から出された「事業者は決まったのですか？」の質問について、町は「陸上風力発電所の建設計画は、事業者が環境省に申請していて、町が誘致している事業ではありません。来年3月までかけて環境影響調査が行われている段階です」と答えました。

## 陸上風力発電の勉強会を開催



厚南会館で開かれた陸上風力発電の勉強会

## ゲートキーパー養成講座を開催



ゲートキーパーについて学ぶ受講者

令和4年度厚真町ゲートキーパー養成講座が3月27日、総合福祉センターで開かれ、参加者31人が役割などを学びました。

講師は、北海道臨床心理士会の齋藤暢一朗さんで、令和2年から町こころのケア事業助言者を務めています。「今こそ学ぼう！こころの健康～かけがえのない命を守るために私たちができること」というテーマで講演しました。

齋藤さんは「自殺などの危険性がある人に対して、判断や批判をせずに話を聞くことが、悩む人への最大の支援になります」と説明。相手の気持ちを尊重して話を聞き、温かく見守りながら早めに専門家に相談するように促すことが、ゲートキーパーの大切な役割と説明しました。